

平成26年度第2回柴田町男女共同参画推進審議会 議事概要

【日 時】

平成26年12月12日（金） 午後3時～5時

【場 所】

柴田町保健センター 2階 特別会議室

【出席者】

柴田町男女共同参画推進審議会委員 6名（別紙のとおり）

事務局（柴田町まちづくり政策課） 4名

【資 料】

- ①男女共同参画推進講座「男女共同参画の視点で作る避難所ワークショップ」の報告について
- ②平成27年度男女共同参画推進事業について
- ②第4次しばた男女共同参画プラン策定に関するアンケートの報告について

【内 容】

進行：事務局（平間）

※審議会は公開とされているため、録音機器で協議を録音したものをもとに議事概要を作成し、町ホームページで公開する旨を説明。

【議 事】

1. 開会

2. あいさつ（会長）

ノーベル平和賞を受賞したマララさんは「前進や発展を求めるならば、お互いに支えあわなければならない」ということを言っています。

日本においても女性の力を求めようとか、教育や子育ての充実といった様々なことを争点として選挙が行われようとしている中でとても刺激的な出来事でした。

今日の審議会でも皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくをお願いします。

3. 議題

①男女共同参画推進講座「男女共同参画の視点で作る避難所ワークショップ」の報告について

<委員>

今回の事業は、昨年の事業が好評だったたので多くの方が集まってくれたのではないのでしょうか。これは素晴らしいことだと思います。

普段の生活から男女共同を意識していくことは重要ですし、緊急時ではなおさら。今回の講座はそういった意味で評価できる講座になったと思います。

<委員>

アンケートの報告を見て、被災地ということもあり、防災に対する関心が高いということが良くわかりました。私は仕事の都合で参加できなかったのですが、働く人が参加しやすいよう土曜日や日曜日などの休日に開催してもらいたいと思いました。

<委員>

被災地でもありますので、防災の意識が高いということが良くわかりました。長野県でも大きな地震を観測するなど、まだまだ継続的に行う必要があると思います。

アンケートの「受講しようと思ったきっかけはなんですか？」という質問の回答の中に、「男女共同参画に関心があるため」が16と、決して小さくはない数字であると思いました。個人的見解ですが、こういった講座に参加する方は社会的で、人付き合いも多い方との印象を受けます。そういった人たちから口コミで情報発信がされることも期待できると思います。

<委員>

今回の講座に参加するきっかけとして、多くの方がダイレクトメールで今回の講座を知ったようです。ダイレクトメールを送らなかつたら参加してもらうことは難しいと感じました。

<副会長>

私も講座の日程を平日ではなく休日などにしてほしいと思います。また去年が良かったので、今年もとといった形で参加している人もいるようなので、根付かせていくことが出来れば、今後柴田町にプロジェクトチームを作ることも可能ではないかと思います。行政でも、この取組みを継続してほしいと思います。

<会長>

アンケートが良い結果を出しているということが良くわかりました。仙台市では3月14日に世界防災会議が開かれます。先ほどから委員の皆さんも考えてらっしゃいますが、防災は男女共同参画を考える上で、とても喫緊なテーマです。アンケート内の自由記入欄にも、意識の高さゆえに厳しいことを書かれている方が結構いらっしやると感じました。身近で、生活につながる部分から男女共同参画を考えていくきっかけを発信していかなければならないと思いました。

<委員>

私たちは男女共同参画の推進が目的であり、今回実施した防災というテーマの事業は、男女共同を考えるという一つのプログラムであるため、防災というテーマが先行しないよう注意しなければなりません。防災という分野だけでなく、他分野でも男女共同参画を推進し、少しでも多くの方が男女共同参画というものに関心をもってもらえたらと思います。

<会長>

そうですね。いかにして町民に切り込んでいくか、そこきちんと持った上で掲示しないといけませんね。文言だけが浮き上がってしまうと住民も趣旨がわかりづらくなってしまいうような気がしますね。

<委員>

講座の知るきっかけですが、お知らせ版は多くの記事が存在し目立ちません。もっと効果的な宣伝をして、自主的に参加してもらえるようになることが大事だと思います。お知らせ版以外の方法など、町で出来る宣伝方法についてお聞きしたいのですが。

<事務局>

回覧版での周知方法がありますが、お知らせ版と回覧版の記事が重複してはいけないという決まりになっています。回覧板のほうが目につく機会は多いかもしれませんが、アパートなどの集合住宅では回覧されない場合があるなどの問題もあります。

<作山会長>

町民の目に付く掲示板を増やすことや、役場の掲示板に貼り出すことなども考えられますが、役場の掲示板では少々見づらいところもあり、なかなか難しいですね。

<委員>

口コミによる伝達が一番早くて効果的なものに思えます。民生委員さんや、区長さんなどから直接的に口利きをしてもらうなどするほうが、コスト面での問題もクリアできますし、もっとも効果を挙げられるのではないかなと思いました。

<事務局>

行政区長さんにダイレクトメールをお送りした結果として、行政区の防災を担当している方々が来てくださっていたので、そういう点では口コミが効果があったのではないかと思います。

<委員>

行政区の防災担当の人に来てもらえたということは、その人たちが何かのプロジェクトなどを起こす際に、リーダーになって取り組むこともあると思われますので、そこから広がっていくことも考えられますし、そこから理解も深めるという点でも効果的だと考えます。

②平成27年度男女共同参画推進事業について

<委員>

議題の3で予定している第4次男女共同参画プラン策定に関するアンケートの結果から町民の皆さんが必要だと思っていることをピックアップしてやってはどうか。

<会長>

アンケートの結果を見ながら考えた委員も多いかと思いますが、今回の議題を考える際は、その結果を踏まえたものを考えてもいいですし、新しい視点から考えたものでもかまいません。

<委員>

防災に関する講座は前回から大変好評なので、ぜひ続けていくべきだと思います。しかし、本来の目的はあくまで女性リーダーを育てることがベースにあるので、講座の活かし方や、講座を受けて関心を持った人たちを、次につなげる手段を考えることが必要で、ここが毎回あやふやになってしまっている気がします。また、このように毎回同じような議論が繰り返されていると感じているのですが、事務局はどのようにお考えですか？

<事務局>

事務局としては、今年やった事業をさらに展開していく方法として、アンケートを記名式で行っていることから、興味があると回答した方に絞って、仙台防災プロジェクトチームの活動に参加させてもらい、地域に戻ってきた際にもそのノウハウを生かすことが出来るのではないかと考えていました。しかし、せんだい防災プロジェクトチームとはまだ交渉していません。

<会長>

こちらの意見には皆さん賛同されているようですね。リーダー育成といっても、なかなか一朝一夕にはうまくいくものではありません。まずは防災委員を最初のステップにして、活動や研修に参加してもらい、参加した人が、より自分の能力を生かして活躍していく。そのような環境づくりをしていきたいですね。これまでに事務局は多彩な企画を打ち出してきていましたが、今回の防災というテーマのような誰もが興味のある入りやすいテーマでよいと思います。

<委員>

私もそうなのですが、実際のところ自分から進んでというわけではなく、進められてはじめてことでしたので、やはり、こちらから積極的にアプローチすることが必要と思います。

<委員>

防災以外のことにアンケート結果を見ても、ほかにも仕事とか、育児とか、結構な割合で悩んでいる方が多いので、数値の高い部分は関心がそれだけ高いということなので、企画を立てる際も、その値を参考にしていけばいいと思います。そのような分野には多くの参加者も見込めますので、力を入れていくといいと思います。

<委員>

防災ワークショップにせつかく興味ある方が参加してくれてきたので、それをつなげることを目的として、何か一つ形にするのを目指しましょう。その形さえ作ってしまえば、後はどんどん動きが広がっていくと思います。

<副会長>

男女ともに協力し合って取り組むべきことは、世の中にたくさんあります。男女共同参画の視点でつくる避難所だけではなく、防災について、ともに同じ方向を向いて進めていければいいと思います。審議会は男女共同参画という視点をはずしてしまわぬよう、常に意識しながら進めていければいいと思います。

<会長>

今回のアンケート調査、町民の方のいろんなニーズが出てきているかと思います。特に、子どもが小さいので働きたくても働けない世代や、育児や介護に関するサービスを充実させてほしいなど、このような意見は担当課などに伝えて対策していかないと、大変だと思いました。活力のあるまちづくりということで、子育て中の夫婦が、町の中で働ける支援なども必要だと思います。

四月にもいろいろな企画が出ていましたね。その中にいくつか重複している部分もありましたが、それらを先ずは一本化し、最小の財源で最大の効果を挙げる。私たちもそのような意識で取り組んでいかなければいけないと思います。

<会長>

みなさま、ありがとうございました。今回の議題では、おおむね防災を中心にしてさまざまな問題がクローズアップされました。では、次の議題に参りたいと思います。

③第4次しばた男女共同参画プラン策定に関するアンケートの報告について

<会長>

今回のアンケートなど大規模な調査になりましたが、今回の調査に係る費用はどのくらいだったのでしょうか？

<事務局>

配送に関わるコスト以外はすべて自作です。配送料金は一通あたり 90 円×1,000 通と、返信で戻ってきた分は 90 円×297 通という計算になります。

<委員>

円グラフの書き方は見づらいと思います。一目でどの項目が一番多いのか、よりわかりやすくするべきではないでしょうか。

また、アンケートをやりっぱなしにせず、町民に対し、アンケートを実施した結果この部分を改善しましたというような結果を見せていくことが重要だと思います。結果が見えないと、どうしても無駄な気がしてしまい、アンケートに答える気持ちにならないものです。意見に答えた実績を見せてほしいと思います。

<委員>

自由意見を読んで、自分の意見をしっかり持っている方が多くいらっしゃると感じました。

<委員>

アンケートの情報量が多すぎる気もしますね。もう少し内容的にも的を絞った上で行えばより効果的なのではないでしょうか。答えやすくすることで回答率も多少は改善に向かうかと思います。

<委員>

働いている人たちや、若い人の関心をいかに集めるか、そこがもっとも大きな課題ですね。

<委員>

自由記入には厳しい意見が多いと思いますね。アンケートの内容が反映されていないなどと、アンケートの意義に疑問をもたれている部分もあります。

若い世代でもしっかりとした意見を持っている方がいるので、回答率を上げるために、なにか目を引くような要素や興味を示すものなどでアピールすることも必要なのではないでしょうか。

<委員>

ぱっと見た印象ですが、町への要望は保育所の充実を挙げているものがとても多いですね。

そのような対策は、こども家庭課で実は既に行われているはずですよ。それでも不満や問題点が出てくるといことは、町民と対策をする側との間で何かズレがあるように思えます。そもそもそのような対策があること自体知らない人も居て、町の制度が見えなくてアンケートに意見や不満を書く方もいらっしゃると思います。保育所に入れなくて困っているといった声も見られますが、もし空いている保育園が見つからなかった場合は無認可保育園に流れてしまうものなのでしょうか？待機児童が増えている直接的な原因は何ですか。

<事務局>

待機児童増加の原因として、保育所のスペースの問題や保育士の雇用の問題、核家族で共働きの世帯が増えており、子どもを預けたい家庭が増えているといったことが考えられます。必ずしも無認可の保育園に預けるといことは無いようですが、町としても対策を講じていますが、需要が上回っている状況が続いています。

<委員>

アンケートの結果を見ると皆さん結構な割合で家庭生活を大事にしたがっていますが、子どもが居る環境で働きに出なければいけない状態になってしまっているのは、行政だけで解決できる問題ではありません。アンケートでは町の責任のように感じてらっしゃる町民の方もたくさんいらっしゃいましたが、働かざるを得ない状況になってしまっているのは国の政策による部分もあるわけですし、町の行政だけでどうこうできる部分にも限界があると思います。現状をよく理解して、みんなで柴田町の将来を考えていかなければならないと思います。

<副会長>

保育所が子どもを預かるのにどの程度の負担が生じるのか。その負担を考え、保育所に預けず家庭で保育する場合に支援する制度を作れば、働かずに子育てに専念できるようになるかもしれない、待機児童の問題が一举に解決するとも思いました。

<会長>

確かにそういった方法もありますが子育てはとても複雑なものです。

女性にスポットを当てただけでなく、今の時代「主夫」という存在もあります。子育てに関しては女性だけという先入観で見るのではなく、ひとりの子どもを家庭で育てていく環境づくりを考えていくべきなのかなと思います。

ほかにも現役を引退した高齢者の方々のなかにも、お子さんを見ることが出来る人もいらっしゃいます。そのような方々にも活躍してもらえそうな制度なども考えるといいかもしれませんね。

<副会長>

アンケートの結果をきちんと踏まえた活動をしているということ、何度もアピールすることは必要です。待機児童が多く居るなんてことは今回のアンケートではじめて知りました。私も保育所に仕事の関係で出入りするのですが、いっぱいになっているという印象はまったく受けておらず、正直驚きました。若い世代は私たちの年代とは給与が安く、共働きをせざるを得ないなど、家庭で保育できないといった、昔とは違った問題を抱えています。男女共同参画とは少し離れてしまうかもしれませんが、上手に結び付けて、この審議会が関われる大きなものとして、保育所の問題があると思いますので、ぜひ動いていきたいと思いますね。

<会長>

本日、三年前の広報誌をお持ちしました。この中でも男女共同参画をアピールしているのですね。まだまだ、いまも認知度が少ないのですが、地道な広報活動の大事さを改めて感じさせられます。年配の方々も大事ですが、若い人たちの意見を取り込まないことには未来の柴田町はありえません。若い人たちが未来に希望を持てるよう、男女共同参画を推し進めながらも、活動していきましょう。

<事務局>

アンケート結果を踏まえながら、必要とされているところなどの穴埋めが出来るよう、関係各所と連携しながら計画づくりを進めていきたいと思います。できれば今年度中にもう一度くらい、計画概要についてまた審議会を通じて意見交換をさせていただければと思います。

もう一点、計画の進捗状況がわかりやすくなるよう、成果指標を計画に盛り込みたいと思います。事業評価が容易になることから、関係各所と連携して計画策定に取り組みます。

4. その他

<事務局>

本日出席いただきました報酬については1月9日の支払いを予定しています。

また、本日欠席の大沼委員より、県の事業で、女性の力を活用する事業助成を受けて、活動することになりましたという連絡をいただきましたので報告いたします。

5. 閉会（副会長）

12月の年も押し迫った中でお集まりいただきありがとうございました。長時間にわたり審議してまいりましたが、この内容を事務局で上手にまとめていただき、町の男女共同参画がより図られることを願って閉会のあいさつとします。

【本審議会の審議内容のまとめ】

- ・推進事業のPR手法について、お知らせ版だけではなく、別な手法も検討すること。
- ・推進事業参加者へのアンケート結果で、「プロジェクトチーム」に参加したいと回答した方々をピックアップし、リーダー候補として育成を図るよう検討する。
- ・平成27年度事業は、今年度と同様防災をテーマにした事業を検討する。
- ・アンケート結果をもとに第4次プランを作成する。目次案、概要等を作成し、今年度中にもう一度審議会を開催したい。